学習内容報告書 フォーマット

学校名	石川県鳳珠郡能登町立松波中学校
授業者	久田　一哉

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

海藻から探る能登町の海（海に親しむ）

1-2.　学年

１年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4.　単元の概要

能登町では、２０１５年、町の創生総合戦略において、「小中学校で郷土愛を深め、ふるさとに誇りを持てる実践教育として海洋教育の充実を図る」ことが明記され、能登町教育委員会の主導で海洋教育の推進が図られている。２０１６年度から能登町の全小中学校での海洋教育が開始された。能登町各校は地域の自然や施設、人材を活用した体験活動の充実と、その前後の言語活動を大切にしながら各学校の独自性を生かした実践を行ってきた。

本校では「海藻」をテーマに各学年ごとに重点項目を設定し、目指すねらい・育成すべき生徒の姿を定め、総合的な学習の時間を柱とした単元を計画し実践した。１年間通して計画的に展開する教育課程の開発と実践を通して、海に進んで関わろうとする生徒の育成をめざすものである。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

能登は漁業や製塩などを通じ，海と深く関り生活してきた地域である。能登町の内浦海岸には全国屈指の藻場があり，多様な生態系を支えている。生徒は海を身近に感じているが重要な役割を担っている藻場には無関心に思われる。そこで海藻をテーマとした体験活動を通して能登町の海に愛着や誇りを持つ生徒の育成を目指す。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

郷土の暮らしを知ることや，藻塩づくりを体験し，大切な塩や海産物を海から得ていること，海の大切さを認識できる。また古代の塩づくりを体験や縄文館での見学をすることで，郷土の歴史に触れることもできる。また体験活動から自分たちの生活に関連させながら，海に親しみを持てると考えられる。

1-7.　単元の展開（全１０時間）

※目指す資質・能力

A：知識及び技能

B：思考力，判断力，表現力等　　①課題の設定　②情報の収集　③整理・分析　④まとめ・表現

C：学びに向かう力，人間性等　　①主体性　②自己理解　③協働　④他者理解　⑤社会参画

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 2	『地元の歴史（暮らし，食文化，イルカ漁など）を知る』 真脇遺跡からは通常は残りにくい木製品や，動物の骨，植物の種子などが非常に良好な状態で出土している。とくに前期末葉から中期初頭にかけての地層から出土した大量のイルカの骨は，縄文時代の人々の食生活を知る大きな手掛かりとなる。縄文時代の郷土での暮らしを講義・解説してもらう。	○教師の指導：授業の趣旨、目的の説明と進行 ○主な評価 ・地元の歴史について理解する。（A） ・課題の解決に向けて，適切に情報を収集する（B②） ○外部連携：真脇縄文館 ○使用教材　ワークシート
3 ～ 5	『海藻，土器を用いた能登の塩づくり体験（海の恵みを実感する活動）』 日本では古代から海水から塩を作ってきた。古代に行われていた塩づくり（海藻を用いた採かん体験，能登式土器を用いたせんごう体験）を体験し，身近で大切な塩を海から得ていることを学習し海の大切さを認識する。また古代の塩づくりを体験することで，郷土の歴史に触れることもできる。	○教師の指導：授業の趣旨、目的の説明と進行 ○主な評価 ・目的に応じて手段を選択し，情報を収集している。(B②) ・視点を決めて多様な情報を分析する。(B③) ○外部連携：のと海洋ふれあいセンター ○使用教材：ワークシート、かん水・製塩体験機材
6 ～ 1 0	『新聞（レポート）作成』 体験活動をまとめ，レポートを作成する。校内掲示や文化祭で掲示し，地域に海の魅力を配信していく。	○教師の指導：課題の提示、授業の進行、全体のまとめ ○主な評価 ・異なる視点や他者の考えを受け入れ尊重する。(C③、④) ○外部連携： ○使用教材：レポート用紙、pwt

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　１０　時間中の　３～５　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

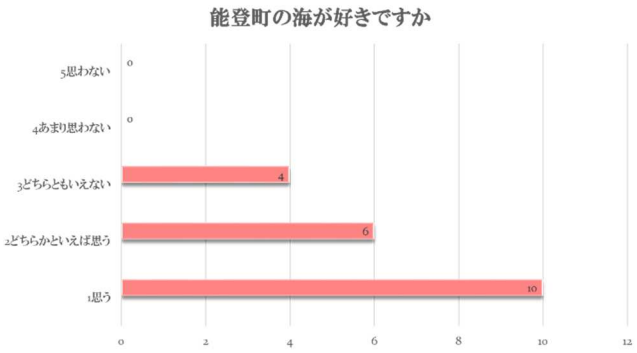
・身近で大切な塩を海から得ていることを学習し海の大切さを理解する。
・郷土の歴史、自然を生かした先人の知恵を知る。
・海を守り、海を利用し、海と人との共生を考えるきっかけとなる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1.目的を理解する。 ・海藻から塩づくりができる。 ・海の恵みを実感することが目的である。	・PowerPoint を用いて、端的に説明する。
縄文土器を使って藻塩作りを体験しよう	
2.かん水づくりの説明を聞き、体験する。 ・採かんの行程、原理を学ぶ。	・ゲストティーチャーに説明してもらう。 海藻を用いたかん水づくりの仕組みや注意点の説明を聞く。 評価の視点①：かん水作成について理解する。（A）
3.せんごう体験の説明を聞き、体験する。 ・せんごうの行程、原理を学ぶ。	・ゲストティーチャーに説明してもらう。 海藻を用いたかん水づくりの仕組みや注意点の説明を聞く。 評価の視点①：藻塩づくりについて理解する。（A）
4．まとめ、振り返り（感想）	・体験活動から学んだ事を整理させる 評価の視点②：(ワークシートの記述から) 相手や目的に応じて，意図を明確にして表現する。(B④)

3.　今回の活動の自己評価

〇１年間の取り組みを終え、生徒アンケートを実施した。海洋教育の取組から、生徒自らが課題を設定し、講義や実習により情報を集め、整理・分析をし、地域に表現、発信するという、探究のプロセスを主体的に取り組むことができた。またアンケート調査の結果から、海への愛着・関心が深まったこと、ねらいに迫った結果（能登町の海に愛着や誇りを持つ姿勢）があらわれたことも大きな成果と考えている。
〇単元プランを作成することで組織的に実践できた。



4.　今後の課題

本校の今後の課題として３つ上げられる。
①地域人材・施設など外部との連携、活用の充実。今後どのように連携していくのかを考える必要がある。
②組織的，系統的な実践。海洋教育は特定の教員が行うのではなく、取り組む体験活動や言語活動を１つの単元としてきちんと整理し、どの教員でも実施可能な単元計画、授業にする
③評価方法の充実。身に着けたい資質・能力が生徒に身についたかどのように見とるか。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・外部指導員との連携（能登里海教育研究所）
・身に着けたい資質能力を明確にすること。